

ポルトガル概要図

1 ポルトガルへ

カステラ、ビスケット、タバコ、ブランコ、ポタン、カッパ(合羽)、カルタ、コンペイトウ(金平糖)などはポルトガル語由来のもの。歴史的には、1498年バスコ・ダ・ガマのインド航路発見、1543年ポルトガル人による日本への鉄砲伝来など、関係が深いのは知っていると思う！

ポルトガルはイベリア半島に位置する、ユーラシア大陸最西端の国。首都はリスボンで、15世紀末の大航海時代の先駆者ともなった。大航海時代に世界の歴史の中心であったポルトガル。当時の華やかな面影を今に伝える豊かな歴史遺産が点在している国なんだ。

残念ながら日本からの直行便はなく、ヨーロッパの主要都市から乗り換えるのが一般的。今回、往路はドイツ・ビールで有名なミュンヘン(本場のビールを堪能した！)帰りはデンマーク・コペンハーゲンを利用。所要時間17～20時間くらい。入国審査はミュンヘンで終了！



ポルトガル共和国 (Portuguese Republic) 時差: 日本は9時間 EU加盟: 1986年(スペインと共に加盟)

国旗: 緑は誠実と希望、赤は新世界発見のため大海原に乗り出したポルトガル人の血を表す。紋章は天測儀で航海術と航路の発見を、7つの城はムーア人(イスラム教徒)から奪い返した城を、青い5つの盾はポルトガルの王を表している。

地理 人口: 1061万人(日本の1/10!) 面積: 9.2万km²(日本の1/4!) 首都: リスボン(人口53万人)
 民族: ポルトガル人91% 気候: 大半が地中海性気候(Cs) 平均気温17.2°C・降水量753mm(リスボン): 冬雨多し
 一人あたりの国民総所得: 21270ドル(2013: 日本の半分) 宗教: カトリック教84%

通貨: ユーロ 日本との貿易: 日本から392億円 ポルトガルから351億円(衣類、トマト調整品など)

歴史 8世紀にムスリムのムーア人が支配。レコンキスタ(国土回復運動)を経て1143年王国誕生。1385年スペインから独立。15世紀～のエンリケ航海王子以来の大航海時代の繁栄・発展。中国や日本へも進出(南蛮貿易)。しかし1580年ハプスブルグ家スペインに併合され、急速に衰退。1640年に独立を回復。1755年のリスボン大地震。大火災と津波で1万5千人が犠牲。首都も壊滅状態。1807年、あのナポレオンがポルトガル侵攻。ところがなんとポルトガル王室はブラジルへ避難(逃げた)。1974年まで独裁体制を許したことが、今でも経済的にEUの中では立ち後れている要因の一つともなった。1974年無血革命(カーネーション革命という)。1976年から民主化が始まり、アフリカの植民地も独立、アジアの東ティモールも独立、マカオが中国返還(1999年)となった。

2 これは奇跡!?何とずーっと青空が我々を歓迎してくれた!!

私の予想と地中海性気候の概念を完全に裏切った! ケッペン気候では、年間通して気温は温暖だが、夏は乾燥しカラッとした晴天が続き、秋から春にかけては雨が多くなり、不安定な気候となる。「雨季に入り傘はもちろん、レインコートは必需品である」と、どのガイドブックにも記載されている。ところがである! 奇跡的に旅行中すべて青空だった! 朝晩は気温がグーっと下がり、霧も発生したが、あっという間に青空に! 天候に恵まれすぎた8日間だった!

先日「関口知宏のヨーロッパ鉄道の旅」10日間ポルトガル編の放映で復習。何かいいんだね、ポルトガルって…全体的に治安もよく街も人ものんびりして、歩きやすい。ポルトガルの人々はおおらかさで人情味があるのかな。困っていれば「どうしたの? 信号のない道路を横断する時は車が止まってくれることも多かった。次は鉄道でポルトガル一周の旅めざそう。

霧のリスボン・オリエンテ駅

1時間もすれば青空!

最西端ロカ岬も快晴!

北の歴史都市ポルトも!



3 リスボン周辺(12月22日～25日3泊・28～29日1泊:イビス・パルケナソエスホテル。ネットで予約)

何とんでも市民の足は地下鉄、バスにリスボン名物路面電車とケーブルカー！路電は一日中乗っていたい！

人口 53 万人の首都リスボン。坂の街だ。バスは複雑なのでやっぱり地下鉄、路面電車そして急斜面はケーブルカーが便利。タクシーは利用しなかったが安くて気軽に利用でき、ボラれることは少ないらしい。市内を回るのに便利なのが「ヴィヴァ・ヴィアジェン (Viva Viagem) カード」。発券代は取られるが(0.5€)、24 時間 6€で市内のすべての交通機関で利用できる。これはお得でとっても便利。それではリスボン市内の見学の旅に出発！（リスボンとはフェニキア語で「良い港」という意味）



路面電車とケーブルカー:リスボンは「7つの丘の街」ともいわれ、起伏が多く歩くのは大変。地元の人々や観光客にとっても市電やケーブルカーは欠かせない。量の狭い道路をゴトゴト走る路面電車はまさにポルトガルの下町情緒を堪能できる。



(左)ケーブルカー(ピッカ線)郷愁と哀愁の坂道、リスボンらしい風景。市内をガタゴト走る路面電車。車体も古く揺るれが、これがまたまらない！

ベレン地区～大航海時代の栄光を訪ねる～旅のスタート

一瞬夏の日差し？と間違えるくらい太陽の日差しが眩しい！ここベレン地区はリスボン中央部からテージョ川に沿って 6 kmほどに西に位置する。15 世紀初め、エンリケ航海王子は大航海時代の幕開けの創始者となった。周辺にはこの時代の歴史的建築物(世界遺産)が残されている。モニュメントがあった。残念だが修復中。先頭はエンリケ航海王子。しっかり大西洋に目を向けている。4 隻の船で出発しインド洋航路の発見者となったあのヴァスコ・ダ・ガマは 3 番目。そのあとにはよくわからないが、マゼランがおり、列最後はフランシスコ・ザビエル。(ベレンとはポルトガル語でキリストの生誕地ベツレヘムのこと)。



左 2 枚ベレンの塔 1520 年。要塞、税関、灯台に利用。大西洋が眩しい。右 3 枚はマヌエル 1 世によるジェロニモス修道院(1502～)。航海の安全祈願。ポルトガル黄金期の象徴でポルトガル海洋王国の記念碑。そしてヴァスコ・ダ・ガマの石棺と修道院の 55m 四方の回廊。



* 後述するが 1584 年 8 月 10 日、日本から 2 年半かけ、あの 4 人の天正遣欧少年使節がベレンの塔に見守られ港に入った。

アルファマ地区～中世の面影を残すリスボンの下町～城からの一大パノラマで見る旧市街地や夕陽は最高や～

アルファマ(Alfama)は、ポルトガル・リスボンの旧市街。1755 年のリスボン地震をのがれ、中世の面影が残る迷路と小さな広場という、絵になるような光景が残った。名前の由来はアラビア語の Al-hamma、「泉」もしくは「風呂」を意味するそうだ。多くのファド(ポルトガルに生まれた民族歌謡)酒場やレストランも多い。

夕方、中世の城サン・ジョルジェ城へ上る。古代ローマに始まり、その後リスボンを支配した さまざまな民族が足跡を遺してきた。その歴史をぶーっと見続けてきた城。ここから見たリスボンの旧市街地のパノラマや夕陽は感動！



アルファマ地区。ただブラブラ歩くだけでも結構楽しい。疲れたら甘味処でコーヒーでも。ビールでも似合う。コーヒーは小さなエスプレッソ。個人的にはあまり好まない。

てんしょうけんおうしょうなんしせつ
サン・ロケ教会～天正遣欧少年使節の足跡を追う！～



1586年ドイツ・アウグスブルグで印刷された少年使節の肖像画。

天正遣欧少年使節？それ何？日本史では結構有名なのですが…。では簡単に。1582年(天正10年)に九州のキリシタン大名、大友宗麟・大村純忠・有馬晴信とイエズス会の命によって、伊東マンショ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン、原マルチノの4人の少年がヨーロッパに派遣され、スペイン・ポルトガル国王とローマ教皇に謁見。リスボンではサン・ロケ教会に一ヶ月ほど滞在。当時ヨーロッパに大きな話題を振りまいた。というより、ユーチューブで見られるお茶の間歴史バラエティ・「戦国鍋 TV～なんとなく歴史が学べる映像～」でグループ「天正遣欧少年使節」の歌う『GO！天正遣欧少年使節』でおなじみかな？私は5年前に発見！一時期はまったよ。



歌詞が凄い！

「♪学校は、セミナリヨ 選ばれたよ 僕ら4人連れてって、ヴァリニャーノ 知りたいよ隣人ラブ ♪この海の向こう 何が待っていても 十五夜に(1582)希望の船で漕ぎ出そう！～」

○日本の長崎を出発したのは1582年2月20日。2年半かけマカオ～マラッカ～インドゴア。リスボンは1584年8月10日、サン・ロケ教会に一ヶ月半宿泊。その間にエヴォアラ(世界遺産)という町で洗礼を受け、シントラなど訪問している。1585年3月1日イタリアに到着。フィレンツェやローマ、ミラノなど訪問し86年4月リスボン出発、1590年7月長崎に帰着。しかし、87年に秀吉のバテレン追放令により時代は変化。つらい時代に入る。かれらが持ち帰ってきたのは活版印刷機、西洋楽器、海図などがある。



サン・ロケ教会、イタリア・バロック様式。1755年の大地震で破壊されたがその後再建された。外部に比べて内部は超豪華。使節団が滞在していたときはもっと質素だったらしい。

近くにある1389年建築のカルモ教会。リスボン最大だった。大地震で倒壊。再建はされなく、ドームがない。

なんばん
南蛮屏風～ポルトガルで出会った日本～



国立古美術館に南蛮屏風があるというので実は25日に行った…しかし何とクリスマス休業！でアウト！28日帰国前日にもう一度トライ！今回はOK！(ヨーロッパのクリスマスは要注意です)

狩野内膳作。桃山文化の最高傑作といわれる屏風絵。長崎やインドのゴアでの日本とポルトガルの交流を知る貴重な資料。



シントラ(世界遺産)～天正ボーイも訪れた風光明媚な王家の避暑地～ムーア人の城壁からの眺望

24日クリスマスイブ。今日も天気は絶好調！透き通るような真っ青な空。電車ちょっと郊外へ足を伸ばす。リスボンから西↓シントラ駅へ28kmの山の中の世界遺産。シントラ駅はかわいい小さな駅。そこから周遊バスで目指すは標高529mのペーナ宮殿と断崖絶壁のムーア(イスラム教徒)の城壁。バスを待つ。おっと団体さん。中国の方々です。周遊バスもほぼ満員。中国語が飛び交う！くねくねした道を上ること20分あまり。バスを降りる。周遊バスはここまで。宮殿入り口まで急斜面を上らなければならない。バスもあるが2€。黙々と10分上る。結構きつい、そして暑い！この宮殿 もともと1836年にペーナ修道院として建築。



しかし1755年のリスボン地震で廃墟と化す。当時の王がペーナ宮殿としてお城を再建。一風変わった建築様式の大量な動的効果がある。内装も格調高い。この日は歩いた！上った！2万歩！



ペーナ宮殿。増築でイスラム、ポシック、ルネッサンス、マヌエル様式の寄せ集めとなった。

宮殿の下には断崖絶壁のムーアの城壁。7～8世紀。かつての栄華が偲ばれる

ムーアの城壁から王宮を望む。今回は時間の関係で見学できなかった。世界遺産。

4 コインブラ(12月25日~28日3泊:アストリアホテル)

ポルトガル第3の都市!国内で最も古い歴史の大学を中心とした文化の中心地、



ポルトガルが誇る高速列車。線路幅が1668mmの広軌。全席指定で快適な旅ができる

コインブラまではリスボンからはポルトガルが誇る特急列車APアルファ ペンドラール(Alfa Pendular)という高速列車で約2時間弱。乗りごごちはい



コインブラ市内行き一駅のみ

い!車内は飛行機の機内のイメージ。200kのスピード。快適だ!ここはやっぱりポルトガルビール。炭酸がきいた

Super Bockというビールが旅の疲れを癒してくれる。車内販売もあり、すかさずもう一缶。異国の地で飲む地元ビールは最高!あつという間にコインブラBという駅。ここで乗換え、たった一駅だが市内コインブラ駅行きに乗車。数分で着いた。



コインブラの老舗のアストリアホテル。外も中もオールクラシック。

コインブラを歩く



コインブラの街並み。この地域全体が世界遺産。青い空とミンデゴ川、茶色の屋根が美しい。



1308年開校、国内最古のコインブラ大学。蔵書30万冊、金泥細工の図書館が凄い。撮影禁止



1530年に建てられたサンタクルス修道院を利用した老舗のレストランサンタ・クルス。



商店やカフェ、レストランが並ぶメインストリート。

ファド(Fado)~コインブラのナイトライフ、何といてもこれでしょう!



カッコいい!黒マント(転写)

1820年代にポルトガルに生まれた民族歌謡。ファドとは運命、または宿命を意味する。ポルトガルギター(12弦)の音色を伴奏に人生の機微を哀愁たっぷりに歌い上げる。夜。ステージを聴きに行った。10€。ギターの音色は映画『第3の男』のテーマ曲で有名なチターにそっくり。コインブラのファドは男性の歌で、男子学生が愛する女性のために捧げたセレナード。黒いマントの衣装も雰囲気がある。ちなみに、コインブラ大学の学生の正装は男女とも黒マントである。



5 ポルト~ポルトガル第2の都市!「ポルトガル」発祥の地であり、何といてもワインでしょう!

ドウロ川と旧市街地。ポートワインがここから運ばれた。



美しいと言われる「レロ・エ・イルマオン」書店へ。このインテリアは一見の価値あり。3€必要。地

27日コインブラから日帰りで訪れた。ここも坂の街だ。人口23万人でこの国の商工業の中心地。ドウロ川河口に位置する。ここはローマ時代にカーレ(Cale:おそらく「温暖な」という意味か)と呼ばれており、港の役割をしていたのでPortus(港)。ポルトウス・カーレとよばれていた。これがポルトガルの始まり。

今日も快晴!駅とは思えないほど立派なサンベント駅からポルト市内が一望できる18世紀ゴシック建築のグレゴリウス教会へ。この周辺も「ポルト歴史地区」として世界遺産。赤い瓦屋根の街並みやドウロ川などの76mから眺望は感動だ!世界で最も



元の人や多くの観光客で店内は大混雑。カレンダーを購入。焼き栗を頬張りながらカテドラルドン・ルイス1世橋から旧市街地へははゴンドラで。そして写真の旧市街地へ。ドン・ルイス1世橋から下へ降り、黒マントマークのサンデマンワイン工場見学...タッチの差で本日の見学は終了。「トモロウね!」...僕たち明日は帰国なのさ...。遅い昼食をとる。ポルトの街を目の前に大航海時代に思いをはせ、レストランでのイワシ焼きにシーフードライス、ビールとワイン!最高のフィナーレでした。



アズレージョという壁画で飾られている北の玄関口、サン・ベント駅。歴史や農村風景が題材



グレゴリウス教会の76mの展望台から見たポルトの街。赤い煉瓦屋根の街並みに心が吸い込まれる。



レロ・エ・イルマオン書店。アールヌーボー(自由曲線の)組み合わせ)+ゴシックの店内。ステンドグラスが教会の雰囲気。



TASCAというレストランでの食事。ポルトで食べる焼いたイワシもおつなもの。ワインとビールがまたいい!